

放送日 令和元年5月7日(火)
担当者 消防長 佐々木 伸

おはようございます。本年4月から北広島市消防本部消防長を拝命しました佐々木です。

近年における災害の発生状況は、異常気象の影響による集中豪雨や大規模地震などの自然災害が日本国内で毎年のように発生しております。この様な状況下で「市民の生命と財産を守る」という消防への期待と責務は極めて大きく「市民が安全で安心して暮らせるまちづくり」のため万全な消防防災体制づくりに取り組んでいくことが大きな命題であると考えています。

現在、市消防の組織体制は消防1課2課、救急課・救急企画課、大曲と西の里出張所で構成される消防署と警防課・予防課・総務課で構成される消防本部において、正職員90名、再任用職員5名、非常勤職員3名の総勢98名で日夜活動を行っております。

この大所帯をまとめていくことは並大抵なことではありませんが、私は消防司令長という階級をもったこの組織のトップとしての責務を全うしなければなりません。そのことから辞令交付式の際には、職員に心がけてほしい3つの重要なポイントを伝えました。

第1には、やはり指揮命令系統が「強固で厳正な規律」を保持して欲しいということ。第2は何時・何処で・誰が・何を・何のために・どの様な情報を必要としているのかという「5W1Hを踏まえた情報」を共有して欲しいということ。そして、第3に上司・部下・同僚、正規・非正規を問わず職員一人一人が「相手を尊重」して欲しいということです。

私はこのことを念頭に置きながら、素晴らしい取り組みには賞賛を、また時には厳しく指導をさせていただきながら強靱で連帯感のある組織体を築いていかなければならないと考えております。そして何より大事なことは危険な現場で活動する職員の命の安全を考えて指揮に当たらなければいけないということです。

終わりになりますが、市民から消防は規律厳正で高い信頼を得ています。元号が令和に変わった今、私自身も含め職員一人一人が気合を入れ直し、その信頼を損なうことがないように職務を遂行していきたいと考えています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年5月8日(水)
担当者 監査事務局長 川合 隆典

おはようございます。監査事務局長の川合です。

今日は平成29年6月の地方自治法改正により話題になりました「内部統制」についてお話しします。

平成28年3月に、第31次地方制度調査会より「人口減少社会に的確に対応する地方行政体制及びガバナンスのあり方に関する答申」が出され、翌年6月に地方自治法が改正されました。この改正は、自治体に対して「財務に関する事務等の管理及び執行が法令に適合し、かつ、適正に行われることを確保するための方針を定め、及びこれに基づき必要な体制を整備すること」を求めています。これが、いわゆる「内部統制制度の整備」を自治体に法的に要請した画期的な改正です。

すでに、同様の内部統制制度の整備は、株式会社や独立行政法人等において法制化されていますが、自治体へ導入される今回の内部統制制度は、人口が減少していく日本において、住民満足の高い行政サービスを如何に提供していくか、そのために如何に事務処理の不正及び不適正処理をなくし、事務効率を向上させ、住民の信頼を得ていくか、このような視点から構築されていく制度となっています。

では、内部統制について簡単に説明すると「組織内において業務を適切に進めるためのルール・手続きを設け」て「組織内のすべての人が、そのルールに基づいて業務を遂行する」プロセスということになります。皆さんの周りでも、実際に決めたルール・手続きに基づいてきちんと処理すれば防げた人為的な単純ミスはありませんか？内部統制は、問題が発覚してから事後的に対処するものでなく、事前に予防・発見できるような仕組みを作り、市役所の組織全体で取組んでいくものです。そして、内部統制は特別なものではなく、どこの市町村でもすでに日常業務の中に仕組みとして存在しているものです。重要なのは、これらの決められたルール通りに実行し、それをチェックすること。業務内容やプロセスを「見える化」することが重要となります。

さて、内部統制というと、不正・誤謬、事件・事故の発生予防策としての側面ばかりが注目されていますが、効果はそればかりではありません。内部統制とは、見方を変えれば「行財政改革のさらなる推進のための仕組み」であり、地方行政に対する住民の信頼回復へ大きく寄与するものとなります。

これまでの行財政改革は、一律に経費削減を図るなど、どちらかというと「無理なダイエット」を強いていた感がありましたが、地方分権時代を迎えたいま、市町村自らの責任と判断で地域住民のニーズに対応していくためには、職員の意識や行政運営のあり方を抜本的に変えていかなければなりません。その意味で、内部統制は従来の業務や組織のあり方を見直し、改革していく大きなチャンスと言えます。ぜひ前向きに取り組んでいかなければならないと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいたく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年5月9日(木)

担当者 教育部長 千葉 直樹

おはようございます。教育部長の千葉直樹です。

私が在籍しています教育委員会の組織と北広島市の学校教育施設を紹介したいと思います。本市の教育委員会は吉田孝志教育長をはじめ5名の教育委員がその職に就き、事務局の教育部は7つの課において再任用職員、任期付き職員、非常勤職員、臨時職員を含め、教育委員会と小中学校に勤務する職員が合わせて約150名、学校教職員約360名が勤務しています。

また、教育施設は西の里陽香分校を含む16校の小中学校のほか、市内には大学、専門学校、高等学校が3校、私立中学校、特別支援学校が2校、幼児教育施設が9園所在し、全ての教育施設を合わせますと1万人近い園児、児童生徒が日々学んでいます。

教育施設の数や通園通学している人数は、本市の人口規模からしますと市外からの就学者も多く、就学者数の人口に対する割合は北海道内において高い自治体といえます。

人口減少する中、このように多くの若者がこの北広島の地で学んでいることは「まちの活気」にもつながり大変喜ばしいと感じています。

このような中、北広島市の教育はこのまちにゆかりのある3偉人である和田郁次郎、中山久蔵、ウィリアム・スミス・クラークの志や行動から、「希望を懐き」、「交流に励み」、「成長に挑む」の精神を新たな時代を担う人材育成のキーワードとして、今と未来を生きる北広島の人づくりをめざしており、これまで展開してきた取り組みをさらに発展的に推進していくために、教育基本計画において8つの政策と24の施策を推進しているところです。

ここで学校教育の一端をご紹介しますと、北海道日本ハムファイターズとのパートナー協定によりファイターズのアカデミーコーチを小学校の体育や中学校のキャリア教育に講師として招いて授業を行っています。

普段の授業とは少し雰囲気も違い、児童生徒は最初緊張した面持ちでしたが、すぐに緊張もほぐれ次第に目が輝き、積極的に学習に取り組んでいる様子は大変頼もしくも思え、児童生徒のみならず教職員にもよい刺激となっているのではないかと感じています。

このような取り組みが今後のまちづくりに欠かすことができない若い力を育て気運を高めるきっかけとなることを願っています。

今後も「大志をいただき学ぶまち・きたひろしま」をテーマに掲げ、生きる力をはぐくむ「学校教育」と、人と人が高めあい人をつなぐ「社会教育」を両輪として、教育施策を推進いたしますが、他部局の方のお力をお借りする場面がございますので、引き続き協力いただきますようお願いいたします。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年5月10日（金）

担当者 教育部理事 津谷 昌樹

おはようございます。教育委員会教育部理事の津谷昌樹です。私は、この3月まで33年間、石狩管内の中学校に勤めてきました。この間、市内の広葉中学校に10年間、東部中学校に3年間の勤務経験があります。今回、三度、北広島市の教育に携わることとなり、大変光栄に思うとともに、その重責をしっかりと果たすよう、決意を新たにしているところです。

私が担当するのは主に学校教育に関する業務です。

北広島市の学校教育の今年度の重点は「義務教育9年間を通して「生きる力」を育む 小中一貫教育の深化」としています。本市では、2年間の準備期間を経て、昨年度より小中一貫教育を本格的にスタートさせました。

小中一貫教育は、平成27年度に制度化され、その後、年々広がりが見られますが、全道・全国的には、この制度を導入している地域や学校はまだまだ少数といえます。ですから、市内6つの中学校区において、それぞれの地区の特徴を生かしながら、すべての小中学校が一貫教育を進める本市の取組というのは、全国からも注目される教育実践であると言ってよいと思います。

2年目となる今年度は、義務教育9年間を見通した系統性・連続性のある教育活動を一層進めることで、さらに教育の効果を高め、学力の向上や豊かな心の育成、中一ギャップの解消等、様々な教育課題の解決を目指していきます。

教育は未来への投資と言われます。

ここ、北広島市に限らず、将来にわたってまちづくりを支える重要な基盤の一つは、人づくりにあります。そして、それは、教育の力をもってしか成し遂げることはできません。教育の原点である家庭・地域社会、そして学校の教育力を高めることが、未来を担う人材を育て、持続的に活力あるまちづくりを推進する大きな力となるはずです。

私も、教育行政の立場から、その一翼を担う一人として、誠意をもって職務にあたる所存です。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年5月13日(月)
担当者 議会事務局長 藤木 幹久

おはようございます。議会事務局長の藤木です。

最近の市役所・職場内は、新規採用の職員も増え、若い職員が多くなりました。また管理職や主査職も若い職員が増え、これからの市役所が期待されますし、楽しみでもあります。私が職員として採用されたのは、昭和58年、今年で36年目になります。多くの先輩の方々は定年退職され、私の公務員生活の区切りも間近となった今、これまで経験してきたことが改めて思い返されます。これまで仕事での失敗や挫折、多くのつまずきがありました。「ここまでよくもったな。」とか、「頑張って耐えてきたし、助けてもらったな。」というのが、今、強く感じている「思い」でもあります。

採用されたばかりの部署は税務課。5月は税金納付書の発付シーズンです。税務課フロア全体が電話・窓口での問い合わせで一杯となり、新米の私は、問い合わせなどの内容の理解に苦しみ、説明も上手くできずに、先輩や上司に助けていただきながらの勉強の毎日でありました。電話が怖くなった時期もありました。土地区画整理での業務では、駅東口の「顔づくり事業」での仕事が思い出され、地権者との交渉、エルフィンパーク整備など駅東口の顔づくり事業の実施のための関係機関等との協議・調整など、ここでも自分の力量不足もあり、なかなか予定どおりに前に進まない、途中で仕事がストップすること、眠れないこともたびたび、沢山の壁にぶつかりながらも、周りに救われて、踏ん張ってこられたと思っています。土木事務所では道路や公園管理での苦情や事故への対応、職員課での大きな制度改革等への対応、そして年が過ぎ経験を積みながら、秘書課・経済部・そして現在でも、多くの失敗、やり直しなど、行ったり来たりのお繰り返しの日々であります。そのような経験の中、思い返しながらかつてきたこと、「壁に当たるのは当たり前。失敗を恐れない。」ということです。失敗は、誰にでも起こり得ること。大切なことは、その失敗を教訓として学び、同じ失敗をしないように自らを対処していく。失敗するたびに立ち上がり、努力すること。これらのことを教わりながら、経験を繰り返しながら、今があるしこれからもあると、改めて思っています。

また「失敗の報酬」と言われる「成長のために失敗がある。」という考えも聞きます。ただ、常に「失敗は糧になる。」という訳ではありませんし、無謀な行為の繰り返しは「失態」と言われます。「一度目の失敗は経験、二度目の失敗は学び、三度目は警告、失敗しても、そこから何も学ばないのが、本当の失敗である。」と言われていきます。「失敗から経験し、学ぶ。そして学ぶことで度胸が備わり、失敗することも覚悟を決めて臨む。」ことが、「失敗を恐れないこと。」であります。「挑戦しないと成功はありません。覚悟を持って、失敗と向き合い、挑戦する。」皆さんには「良い仕事を目指して、失敗を恐れずに思い切ってやっていただきたい。」というのが、今の私の「思い」であります。そして、先輩の方々につきましても、これまでの経験、今までの自分を思い返し、日頃から周りに目配り、気配りしながらも、手を差し伸ばせるよう備えていただき、適切なサポートをお願いしたいと思っています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年5月14日(火)

担当者 企画課長 橋本 征紀

おはようございます。企画課長の橋本です。

本日は、企画課で所管している公共交通に関してお話しをします。

皆さんは、普段、バスに乗って出掛けることはありますか。私は、通勤が徒歩であること、また休日など、子どもと一緒に出掛けるときには、自家用車が便利なこともあり、バスを使う機会は殆どないのですが、一人で出かけるときには、バスを使って駅まで、或いは、札幌まで移動することがあります。本を読んだり、外の風景を眺めたり、自家用車を使っているときにはできない時間の使い方ができます。

さて、私が子どものころは、将来の職業でバスの運転手になりたいといった夢を持っている同級生がいたものですが、現在、バス業界は、バス利用者の減少とともに、運転手の成り手不足といった課題を抱えています。

理由は、様々あると思いますが、今の子どもたちは、自家用車での移動が中心となり、バスに触れる機会が少なくなっていることも、理由の一つなのかもしれません。

この春、次女が小学校に入学しました。小学生の娘二人を連れて、バスに乗って出かけてみようと思います。子どもたちにとっては、ちょっとした体験になり、身近な乗り物として感じてもらえるきっかけに、また、こうした小さな積み重ねが、将来的な路線の維持につながっていくのかもしれません。

市の取組に目を向けますと、市内完結路線である北広島団地線について、この秋の再編を目指し、取組を進めています。地域への説明等を丁寧に行い、皆さんに利用される路線を目指してまいります。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年5月15日（水）
担当者 消防本部次長 山口 洋幸

おはようございます。消防本部次長の山口です。

昨年は北広島市にとって、非常に大きな災害が発生し、消防にとっても多くの課題を残した一年でありました。

台風21号では市内全域に渡り倒木が相次ぎ、2名の負傷者が発生、次の日には胆振東部地震に見舞われ、大曲並木地区に大きな被害をもたらしました。

われわれ消防は普段から市民の安全と安心を守るため日々、様々な訓練を通じて災害に対処する準備をしておりますが、正直これほどの地震災害に見舞われるとは予想もしていませんでした。市内の電話回線もほぼ不通となったことから消防の要とも言える指令システムが119番を受け付けることが出来なくなり、非番員や週休者、消防団員を招集する術もなくなったことから、もし今、別の大災害が発生したらどのように対処したらいいのかと非常に頭を悩ませ、改めて普段からの危機管理意識の重要性を痛感した災害でありました。

本市は今、2023年のボールパーク開業に向け、着々と準備が進められております。一度に3万人以上を収容できる施設は消防にとっても様々な災害対応を考慮しなくてはならない重要な施設となります。多数の傷病者が一度に発生した場合やテロ対策などのマニュアルなども改めて見直しをしていかなければなりません。

このようなことから、今一度昨年の災害を教訓に、消防としての役割を見つめ直し、どんな災害にも対処できるような新しい組織作りに向け、しっかりとした準備をしていきたいと思っております。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年5月16日（木）

担当者 消防署長 本田 高広

おはようございます。消防署の本田といいます。

私は、本年4月の人事異動により現在の部署にきて、1ヶ月が経過しました。

消防署で力を入れている業務として、火災や救急などの災害出動のほか、スーパー、福祉施設や危険物施設に対して、建物や消防用設備等が消防法令に基づき基準に適合しているか否か定期的に検査を実施して、違反が判明した場合は、その建物の所有者に対し、違反事項を速やかに是正していただき、建物利用者や付近住民の安全確保を図るための立入検査など、署員のみんなが力を入れて取り組んでいるところです。

昨年は北海道日本ハムファイターズの新球場を含めたボールパーク構想が北広島市に決定したことで、市にとっても大きなプロジェクトであり、消防としてもボールパーク構想の実現に向けて、消防体制の充実強化を図っていかなければなりません。

最後になりますが、近年全国各地で地震や豪雨による災害が発生しており、昨年北広島市でも、9月4日の深夜から5日の朝にかけて、北海道付近を通過した台風21号による強風の影響で、倒木が相次いだほか、建物の屋根や壁、テレビアンテナが飛ばされるなどの被害が発生したことで、消防署には、4日深夜から強風関連の出動要請が多数寄せられ、5日の朝まで対応に追われたところです。

今の日本は、地震や大雨などの異常気象による災害が毎年各地で起きています。

災害に合わないのが一番ですが、日頃から準備をしておくことで、いざという時にあわてないように備えておくことが大切であると深く実感したところでもあります。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年5月17日（金）
担当者 総務部派遣次長 櫻井 洋史

おはようございます。道央廃棄物処理組合事務局次長の櫻井です。

私は、6年前の7月に、約1ヶ月間、東京都立川市にある自治大学校の第3部課程の研修を受講させていただきました。自治大学校では、地方自治体職員の政策形成能力や行政管理能力を総合的に養成するため、職種や階層別に様々な研修や調査研究を行っています。私が受講した第3部課程は、全国の都道府県、市町村の管理職120名を対象に、現役の中央官僚や大学教授、著名な建築家などを講師として講義を中心に行われました。

校舎は、東京都内にあるとは思えない広大な敷地の中に、研修棟や宿泊棟のほか、体育館やグラウンドも備えられており、非常に充実した環境でした。

研修自体はもちろん素晴らしいものでしたが、ともに生活した研修生仲間との交流が一番の財産となりました。卒業後の今でも、宿泊棟の同じフロアで暮らした仲間とは、毎年全国持ち回りで同期会を開催しており、個人的にも様々な場面で情報交換を行うなど、得難い人脈を築かせてもらいました。

研修は、日々の業務に追われがちなか、面倒だとか、残った仕事はどうしようかと思いがちです。研修を受けて、個人の資質を向上させることはもちろん重要ですが、庁舎内だけではない人とのつながりを広げることにより、いろいろな情報や、新たな考え方を得ることで研修の価値をより高めることができます。

特に、若い職員の皆さんは、研修だけではなく、いろいろな場面で進んで外に出て、自分の可能性を少しでも広げていくよう努めてみてください。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年5月20日（月）
担当者 総合計画課長 佐藤 直人

おはようございます。総合計画課長の佐藤直人です。

平成23年度から始まった第5次総合計画もまもなく10年の計画期間の終わりを迎えます。再来年度からスタートする第6次総合計画の策定に向け、総合計画課で勤務してからあっという間に1月半が経過しました。

総合計画は、将来の北広島市をどのようなまちにしていくかを示す、まちづくりの指針となるもので、基本理念や都市像を示し、政策・施策の方向性を定め、福祉や都市計画などすべての計画の基本となる、まちづくりの最上位に位置付けられる計画となります。

最初の総合計画である「広島町総合開発計画」が昭和45年に策定されて以降、「自然と創造の調和した豊かな都市」をまちづくりのテーマとし、自然や緑の中に、いきいきとした市民の生活や活動、躍動する産業などがあるまちをめざした取組を進めてきました。第5次総合計画では、まちづくりのテーマや目指す都市像などの基本的方向を示した基本構想、基本構想に掲げる将来像の実現のため、政策や施策を体系的に示した基本計画、基本計画に掲げる施策を効果的に実施するための具体的な事業や行動を示した推進計画の3層構造により、まちづくりに取り組んできました。

私たち公務員は、法令等を根拠として業務を行うことはもちろんですが、北広島市職員として、総合計画がめざす都市像の実現に向けて日々の業務に取り組んでいるということも改めて感じていただければと思います。

第5次総合計画も総仕上げの時期を迎えます。これを機会に改めて総合計画を読んで、業務にあたっていただきたいと思います。

また、次期総合計画の策定に向け、今月から各課所管の事業内容や課題などに関するヒアリングを行っているところです。引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年5月21日(火)
担当者 政策広報課長 安田 将人

おはようございます。企画財政部政策広報課長の安田です。政策広報課では、シティセールス事業で市の魅力を発信するプロモーションを行っています。

市の魅力を広く知っていただくために、動画の配信やフェイスブック、インスタグラムなど、いろいろな手法で情報を発信しています。動画では、昨年度から新たな試みとして、YouTuberの方が北広島市の季節ごとの楽しみ方やお薦めの場所などを紹介するものを配信しているほか、市町村では全国初と思われるバーチャルYouTuber「クラーク先生」を登場させて、市の情報を伝えています。まだご覧になっていない方はぜひご覧ください。同じく昨年度から、四季折々の市内の風景を写真に収め、宣伝用ツールにしています。YouTuber動画と写真は、現在春のシーズン編を作成しています。

宣伝素材の写真は、今後公式Instagramでも順次発信していきます。Instagramでは、観光や各種イベントなどについての投稿も行っています。発信するイベントの情報や関連写真がありましたら、お知らせください。

社会にはたくさんの情報が溢れています。その中から、市が発信したものを相手に選んでもらい、良いところを感じ取ってもらうためには様々な工夫が必要だと思います。まだ広く知られていない魅力や、これから新しく増えていく魅力をできるだけ多くの方に受け取ってもらえるように、今後も効果的な方法を検討していきます。職員の皆さんにも、北広島市のセールスマンとして、いろいろな機会をとらえて魅力をPRしていただきますようご協力をお願いいたします。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員の皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年5月22日（水）

担当者 財政課長 佐藤 亮

おはようございます。財政課長の佐藤 亮です。

先日のGWの終わりごろ、満開の桜の花を見ながら、2年前のちょうどこの時期に、新しく完成した庁舎へ引越しをした時の光景がふっと浮かびました。完成したばかりのピカピカの内外装、バリアフリーや省エネルギーに配慮され、耐震にも優れた新庁舎の佇まいは、喜びをもって市民の皆さんや職員に迎えられ、私も当時強く高揚感を覚えたものでした。一方、時がたつにつれて、引越し後に壊されていった旧庁舎での記憶が薄れてきているのを感じております。

思い返せば、築40年以上が経過し老朽化したかつての旧庁舎は、春になればワラジムシが床を歩き、夏は空調がなく汗で腕に張り付く書類と格闘し、秋の強風では火災警報器が誤動作を起こして鳴り響き、冬は調子の悪い石油ストーブのご機嫌を伺いながら朝の着火タイマーをセットするなど、現在の快適な執務環境と比べると大変厳しい環境でありました。

今では、そこにあるのが当たり前となった快適な執務環境ですが、今後この環境をできるだけ長く維持していくためには、引越ししたばかりのころに持っていた、クリアディスクへの高い意識や庁舎備品などを慎重に取り扱う姿勢が重要ではないかと考えています。

割れ窓理論というのをご存知だと思います。きれいな状態を保つとなかなか汚れませんが、一部の汚れた部分を放置すると、だんだん全体によごれが広がっていくものです。今一度新しい庁舎に引越してきた時の感動を思い出して、執務空間の整理整頓に努め、大事に庁舎を使っていこうと気持ちを新たにしたGWの終わりでした。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年5月23日(木)
担当者 都市計画課長 新田 邦広

おはようございます。企画財政部都市計画課長の新田邦広です。

都市計画課では、令和2年度の策定を目指し、「都市計画マスタープラン」及び「緑の基本計画」の見直し作業に取り組んでいます。

これらの計画は、「北広島市総合計画」を上位計画として、環境や福祉などの各分野の計画と整合を図り、それらと一体となって、めざす都市像を実現するための指針として策定するものです。

計画は、目標年次である令和13年度を見据えた将来の都市像を反映させるため、現在をとりまく人口問題や、環境問題、社会構造の変化などを的確に分析し、市内全域の現状を俯瞰的に把握するとともに、市民、事業者、行政がその将来像を共有することが求められます。

また、昨年10月に正式決定されたボールパーク構想を着実に推進するため、各計画にどのように盛り込むかが重要となることから、市役所内部の情報の共有化はもちろんのこと、国や北海道、事業者との連携のさらなる強化を図り、慎重に計画づくりを進めていかなければならないと考えております。

平成から令和へと時代は変わり、北広島市においても、「世界がまだ見ぬボールパーク」の建設という夢の実現に向けて、大きく変革する時を迎えています。

これまで経験したことの無い未知の課題にも対処していかなければならないと思いますが、この変革の時に、まちづくりの一端を担えるという意味と重みを認識しながら、次世代に誇れるものを残せるよう努力していきたいと思っております。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年5月24日（金）
担当者 ボールパーク推進課長 柴 清文

おはようございます。ボールパーク推進課長の柴です。

ボールパーク構想につきましては、昨年の10月に、新球場建設の正式決定を受けてから、早くも半年以上が経過し、現在は、各関係機関との協議・調整、またインフラ・ハード整備含め業務を進めているところです。

メディアや報道では、誘致の段階や正式決定直後のような頻繁さはありませんが、来年以降本格化してくる各種工事などに向け、手続きなどを着々と進めており、来年の雪解け後からは、いよいよ新球場の工事も始まる予定ですので、動き出した雰囲気を感じられるかと思います。

これらハード的な動きのほか、推進課では4年後となった開業に向け、機運醸成の各種取組を行ってきております。

昨年からはまったファイターズとの連携事業では、学校教育の中にもファイターズに関わっていただき、先日行われた大曲小学校の体育授業では、アカデミーコーチによって、ボールを投げることの楽しさを知った子どもたちの、たくさんの笑顔も見られました。

また、子ども発達支援センターなどの他部署と連携した事業も行っていくほか、昨年に引き続き、札幌ドームで球団会社としてのファイターズに触れる「職員研修会」も実施いたしますので、是非ともご参加いただき、日頃の業務を行っていく中での刺激になればと考えております。

これらの取組により、市民の皆さん、職員の皆さんにもファイターズを身近に感じていただければと思います。

また、4月から、ボールパークに関するふるさと納税返礼品を始めたところですが、ふるさと納税では昨年を上回る、倍以上のペースで寄附が寄せられており、その半数以上が「ボールパークに関することに使用してほしい」といったものとなっており、依然として熱い想いが寄せられています。

ボールパークのあるまちとして、初めての取組、新しい取組が目白押しですが、今後も各部署との連携を密にするとともに、市民の方は基より、道外にも、ボールパークに「夢・希望」を期待するたくさんの方々がいる限り、その実現に向け、精一杯取り組んで参りたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年5月27日(月)

担当者 ボールパーク施設課長 中垣 和彦

おはようございます。ボールパーク施設課長の中垣です。

ボールパーク施設課の主な仕事は、ボールパーク構想に関連する道路や公園、上下水道の整備など、インフラ整備に関する業務であり、新球場の開業予定である2023年春までに各種の整備を行うべく鋭意取り組んでいるところであります。

今年度の事業として、市道整備事業については、測量や実施設計、埋蔵文化財の調査などを行います。

都市公園整備事業は、用地の取得や支障物件の補償などを行います。

また、道路に埋設される上下水道の設計なども行い、来年度から本格的に工事を進めていく予定であります。

道路にはそのほかに、電力やガス管などが埋設される予定であることから、各種事業管理者と実施に向けたスケジュールの調整などの協議を行っております。

新設するアクセス道路の整備にあたっては、道路予定地の大部分が私有地であることから、土地の所有者に事業の説明を行い、ご理解とご協力を頂きながら事業を進めているところであります。

土地所有者の方々とお話をしていると、「ボールパーク構想を楽しみしており、ぜひ協力します。」などのお話を頂き、ボールパーク構想に対する関心の高さを感じているところです。

新球場の開業までは4年を切っており、インフラ整備のスケジュールもタイトではありますが、各関係者のご協力も頂きながら、事業を成功させたいと考えております。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年5月28日(火)

担当者 総務課長 杉山 正一

おはようございます。総務課長の杉山です。

今日は、ごみの廃棄について、お話しします。

市役所から出るごみのうち産業廃棄物にあたらないものは、事業系の一般廃棄物として、故紙やミックスペーパー、びん・かん・ペットボトル、生ごみ、その他プラスチック類に分別し、ごみの資源化や減量化に努めているところです。

ごみ置き場の様子を見ると、ミックスペーパーのところにプラスチックや包装フィルム、アルミホイルが入っていることがあったり、プラスチック類のところに弁当ガラが乱雑に投げてあり、ごみの容量が増えている様子が見られます。

清掃業者の方にお話をお伺いしたところ、このほかにも、生ごみに balan やフードケース、コーヒーのフィルターやパックが入っていたり、カップ麺の汁が入ったまま置かれていたり、揮発性のスプレーを拭いた紙、ときには針が入っていたこともあった、とのことでした。

ペットボトルは、すすいでキャップやラベルを取り、資源化しているが、弁当ガラも、きれいに洗ってあれば資源として出せるともおっしゃっていました。

これらのごみは、いずれも、清掃業者の方が手作業で分別・整理をしていただいています。職員一人一人の心がけで不要な作業を減らすことができますと思います。

ごみの減量化とリサイクルを推進するため、ごみの発生を抑えるリデュース、再利用を図るリユース、再資源化を図るリサイクルのいわゆる3R(スリーアール)が取り組まれているところですが、環境への負荷の少ない持続可能な社会への実現に向けて、様々なところで働いている方々へのリスペクトを含めた4R(フォーアール)の気持ちで、ごみ分別等にご協力をお願いします。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年5月29日（水）

担当者 職員課長 尾崎 英輝

おはようございます。職員課長の尾崎です。

本日は「働くこと」についてお話ししたいと思います。皆さんは何のために働いていますか。こんなことを聞くと「生活をするために決まっているじゃないか」という声が聞こえてきそうです。もちろん生活をするためにはお金が必要ですし、そのお金を得るためには働かなければなりません。しかし、働くことの意味はそれだけではないように思えます。

ご存じのように市役所の仕事は多岐に及んでいます。自分自身を振り返っても、芸術文化ホール図書館の開設準備室から始まって、芸術文化ホール、東広島市商工観光課、財政課経理審査係、企画調整課、福祉課生活保護担当、下水道課、秘書課、財政課、大曲出張所、健康推進課、そして現在は職員課と全く分野の違う様々な仕事をさせていただいております。器用な方ではありませんので異動の度に苦労してきましたが、何とか今までやってこれました。それはどの部署のどんな仕事でも、市の為、市民の為に少しは役に立っていると思えたからかもしれません。働くということはきっと誰かの役に立つということなのだと思います。地方公共団体の役割、目的はそこに住む人たちの生活を支えることです。どの部署のどんな仕事もその為の手段であって目的ではありません。日々の膨大な業務の中、目的と手段を混同すると、取り組むべきとはいえない仕事に時間やコストを費やし、苦労したのに市民の為になっていないということもあるかもしれません。何のために働いているのかしっかりと意識し、業務に取り組んでいればその頑張りはいつかちゃんと報われるものだと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年5月30日(木)
担当者 行政管理課長 安田 寿文

おはようございます。行政管理課長の安田寿文です。

行政管理課は、主査2名、スタッフ3名、非常勤職員1名の私を含め、7名体制で皆さんが日々利用している情報システムの総合的管理や情報公開、個人情報保護制度、公文書管理など、庁内全体に関わる業務に取り組んでいるところであります。

その中でも、新庁舎への移転に合わせ、ここ数年は公文書の管理について、重点的に取り組んできており、平成28年度から各課の文書主任を中心に職員みなさんの協力を得ながら本庁舎や一部出先機関に、統一したルールに基づいて、決められた場所に保管管理するファイリングシステムを順次導入し、また昨年度はこれまでフレンドリーセンターに主に保存されていた10年、永年保存文書をすべて庁舎別館に移管し、合わせて、保存している公文書の表題や年度など、ある程度の情報を行政管理課に問い合わせただけであれば、その公文書がどの棚のどの箱に保存されているか分かるようデータで管理できるよう、整備をしてきたところであります。ファイリングシステムもだいぶ定着し、以前と比較して必要な公文書を時間かけずに探せるようになるなど事務の効率化が図られていますが、今後はファイリングシステムと公文書管理システムを今まで以上に連動活用することでさらに事務の効率化が図られていくものと思います。昨年も言いましたが、公文書は行政のものだけでなく、市民共有の知的資産でもあります。今作成している公文書は、10年後、20年後、さらにそれ以上の年月がたっても必要とされる書類です。職員一人ひとりがその認識を持って適切に管理するようお願いします。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年5月31日（金）

担当者 秘書課長 福田 誠

おはようございます。秘書課長の福田です。

今日は秘書課の業務について、お話をさせていただきます。

秘書課の主な業務といたしましては、理事者が参加する会議や行事、来客対応、打合せなどの日程調整のほか、市長車・連絡公用車の運行管理などを日々行っております。また、姉妹都市交流事業といたしまして、毎年春に広島赤十字原爆病院や施設などへ、北海道の旬の味覚である「グリーンアスパラ」を送付する事業も秘書課が担当しており、今年は6月4日に新千歳空港でセレモニーを行います。こちらの事業は昭和52年から行われており、今年で43回目を迎えます。アスパラの輸送にあたっては当初から「全日本空輸株式会社」様と「日本通運株式会社」様に、本事業の主旨にご理解をいただき、2社のご厚意により行われております。また、アスパラの購入などについては「道央農業協同組合」様にもご協力をいただいております。今後におきましても、皆様にご協力をいただきながら事業を継続していきたいと考えております。このほか、市内のゴルフ場で開催されます北海道 meiji カップと ANA オープンゴルフトーナメントの大会運営ボランティアの募集、申込みの受け付けなども秘書課で行っております。今年は北海道 meiji カップが8月9日から、ANA オープンが9月12日から開催されます。毎年職員の皆様にも、ボランティアの願いをしておりますが、ここ数年、目標人数に達しておりません。これからボランティア募集のご案内をさせていただきますが、どちらの大会も地元に着した大会となっておりますので、職員皆様のご協力をお願いいたします。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。